

令和8年度 学習計画(シラバス)

教科	科目	対象学年 コース	単位数	担当者氏名	教科書 著者 発行所	使用教材・発行所
数学	数学 I	1年	3	嶋谷 直子 斉藤 秀史	改訂版 高等学校 数学 I 戸瀬 伸之 ほか15名 教研出版	改訂版 4プロセス数学 I + A(教研出版) 改訂版 チャート式 解法と演習数学 I + A(教研出版)
指導の重点	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析、式と証明、複素数と方程式について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点	知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。				
	思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表し、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。				
	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度。				
学習の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極的な取り組み ・課題・提出物の状況(ノート・プリント) ・定期考査、小テストの点数、提出物、振り返りシートの内容 					
学期	月	考査	単元	学習内容	学習の目標(評価)	
1	4	中間	第1章 数と式	第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の加法、減法の計算ができる。(知) ・式の特徴に着目して変形したり、式を一つの文字におき換えたりすることによって、式の計算を簡略化できる。(知)(思) ・展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用する態度がある。(主) 	
			第2章 実数	第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式	<ul style="list-style-type: none"> ・有理数と無理数の違い、および実数について理解している。(知) ・平方根の性質、平方根の積、商などについて、一般化して考えられる。(思) ・不等式における解の意味を理解し、1次不等式の応用問題を解くことができる。(知) ・絶対値記号を含む式について、絶対値記号をはずす処理ができる。(思) 	
			第3章 集合と命題	1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明	<ul style="list-style-type: none"> ・ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して処理することができる。(知) ・3つの集合についても、和集合、共通部分について考察しようとする。(主) ・条件と集合の関係を理解し、必要条件、十分条件を集合の関係でとらえることができる。(思) ・命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解しており、それらの真偽を調べることができる。(知) 	
	7	期末	第3章 2次関数	第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数を具体的な事象の考察や2次不等式を解くことなどに活用できるようにする。(知) ・一般の2次関数について、軸、頂点の式を考察しようとする。(主) ・2次関数を平方完成の形に変形し、最大値、最小値を求めることができる。(知) ・2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を使うことができる。(思) 	
			第4章 2次方程式と2次不等式	第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式	<ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式を解く一般的方法として解の公式が利用できる。(思) ・2次関数のグラフとx軸の共有点の座標が求められる。(知) ・身近な問題を2次不等式の問題に帰着させることができ、問題を解くことができる。(思)(知) ・絶対値を含む1次関数、2次関数について、そのグラフを考察しようとする。(主) 	
			第4章 図形と計量	第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理	<ul style="list-style-type: none"> ・直角三角形において、正弦・余弦・正接が求められる。(知) ・三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。(知) ・三角形の外接円、円周角、辺の長さなどの関係を考察することができる。(思) ・三平方の定理をもとに、余弦定理を導こうとする。(主) 	
			第5章 データの分析	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間関係 6 仮説検定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。(知) ・四分位範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較することができる。(知)(思) ・分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。(知) ・不確実な事象の起こりやすさに着目し、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。(思) 	
2	10	中間	第5章 データの分析	6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	<ul style="list-style-type: none"> ・余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。(知) ・三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。(主) ・正弦定理、余弦定理を空間図形の計量に応用できる。(思)(知) 	
			第5章 データの分析	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間関係 6 仮説検定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。(知) ・四分位範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較することができる。(知)(思) ・分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。(知) ・不確実な事象の起こりやすさに着目し、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。(思) 	
			第5章 データの分析	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間関係 6 仮説検定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。(知) ・四分位範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較することができる。(知)(思) ・分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。(知) ・不確実な事象の起こりやすさに着目し、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。(思) 	
3	1	学年末				